

こめ たに つかさ
米谷司さん

学校教育学部生活・健康系コース
(保健体育)3年

平成3(1991)年三田市生まれ。22(2010)年に入学。小学4年生でバレーを始め、中学時代は兵庫県選抜の一員として全国大会出場。兵教大では1年生からエースパイカーとして活躍。今年3月、体育会会長に就任した。身長182センチ。



近畿地区国立大学体育大会の結団式では体育系の部員たちを前にあいさつをした



キラリな人
SHINY PERSON

**近いうちに
イベントを開き
体育会の存在を
アピールしたいです**

今

年3月に体育会会長に就任した男子バレー

ボール部の主将。「体育会がいろいろと活動していたとは、会長になるまで知りませんでした」と苦笑する。会長は代々、保健体育分野の学生が務めており、代替わりの際は会長が後継にふさわしい数人を選び、その中から立候補を募る。前会長から打診された時、「自分自身を変えるチャンスだ」と直感、ただ一人手を挙げた。

「僕は人前で話すことが苦手、相手の目を見られませんでした。会長は人前に立つ機会も多いし、克服できるのではないかと考えたのです」

会長の重要な任務の一つが体育施設の利用調整だ。月1回、体育会24クラブの代表者と体育館やグラウンドの利用日について話し合う。「長期休暇中の利用はジャンケンで決めていましたが、昨年の夏休みにあるクラブが1カ月間、体育館を全く使えなかったの何か手を打たないといけないと思いました」

今年の夏休み前、各クラブに利用日の決め方について、

従来通りジャンケンで決める、平日は体育会が調整し土曜日はジャンケンで決める、全て体育会が調整するという三つを提案。その結果、体育会が全日程を管理することになった。

ほかにも会長の仕事は多い。新入生対象のクラブ紹介や近畿地区国立大学体育大会に向けての結団式では企画・運営を務め、7月には体育会の全役員が参加するグラウンドの草刈りと体育館の清掃で指揮を執った。マイクを前にしての口調もすっかり滑らかになった。

就任から半年がたち、新たな試みへの意欲も芽生えてきた。スポーツイベントを開催し、学内に体育会の存在をアピールしたいと意気込む。「地域の人も参加できる運動会とかがいいのですが、いきなり大それたことはできませんから」と、クラブ対抗の駅伝大会を構想中だ。たとえ小規模でも初のイベントを実現させ、次の代にバトンを渡したいと願う。「年内にはやりたいですね、絶対に」と言って視線を真っすぐ前に向けた。